

令和3年度 第22回全日本中学生バドミントン選手権大会 感染防止対策ガイドライン

令和4年2月25日
徳島県バドミントン協会

1. 基本方針

本ガイドラインは、日本バドミントン協会策定の「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン（3章バドミントン競技大会・イベント実施にあたって）」を基に、現時点で得られている知見等に基づいて作成しています。今後の感染状況等により、適宜見直すことがあり得ることにご留意ください。

2. 大会の開催にあたって

今大会の開催にあたっては、徳島県および鳴門市、徳島市、吉野川市と十分に協議のうえ、本ガイドラインを参照し実施にあたるものとします。今後の感染状況によっては、大会を中止とすることもあります。

3. 大会開催時の感染防止策について

今大会は、日本バドミントン協会ガイドラインおよび本ガイドラインを基に、新型コロナウイルス感染症対策下での実施となります。そのため、以下の通り対応を行うこととします。

(1) 大会開催前の留意事項

- 1) 大会前2週間の検温・体調管理は、選手および監督・コーチ、引率責任者、大会役員等、IDが発行されるすべての人を対象とする。毎日、健康状態を確認のうえ、「健康チェックシート（セルフチェック用）」に体温等を記録し、健康管理を徹底する。それを基に「健康チェックシート（提出用）」を記録し、毎日受付時に提出、チェックを受ける（セルフチェック用は提示不要）。
また抗原検査キットを陰性証明として、25日と26日の受付で提示する。
- 2) 日常から手洗い、アルコール等による手指消毒など感染症予防を徹底する。

(2) 大会当日の留意事項

- 1) 今大会は無観客での開催とする。会場内へは、事前に登録した監督・コーチ・選手および大会運営役員、スタッフのみが入場できるものとし、IDによる入場管理を行うこととする。
- 2) 開閉会式、監督会議は実施しない。競技上の注意および審判上の注意については、事前にWebサイトへ掲載する。不明な点については、事前に大会事務局へ質問すること。
- 3) 表彰式は行わず、コート表彰等の簡易表彰とする。
- 4) 大会当日の入館時は、検温と手消毒の徹底、および体調チェックシートによる健康チェック、それと25日、26日は抗原検査キット提示を行う。

- 5) 以下の事項に該当する場合は、大会に参加することができない。
- ア 体調が良くない場合（例：発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合）
 - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合
 - エ 徳島入りする前日（24日）と予選リーグ当日（26日）の朝に行う抗原検査で陽性反応が出た場合
- 6) 会場への移動等は、各都道府県で責任を持って行い、集団感染のリスクを避けること。特に公共交通機関を利用する場合は、マスクの着用を徹底し、近距離での会話を控えるなど注意すること。
- 7) 参加生徒を含む大会関係者は全員マスクを持参し、競技等実施時および飲食時を除いてマスクを着用する。
- 8) 下駄箱の使用は禁止とする。シューズ袋を持参するなどし、各自で管理すること。
- 9) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。
- 10) 競技等実施時を除き、ソーシャルディスタンスの確保に努める（2m以上、最低でも1m）。
- 11) 自身の試合・役割等が終了したら、観戦や応援をせず、使用した場所を消毒し、速やかに帰宅する。
- 12) 換気のため、窓、扉の常時または定期的な開放を行うことがある。
- 13) 通路や階段における接触を最小限とするため、会場内の通行方法（入退場導線、左側通行等）を定める。
- 14) 控え場所（観覧席）を使用する際は、前後左右1席ずつ空けて着席する。各都道府県の割当については別に定める。

(3) 競技中の留意事項

【参加者（選手・監督・コーチ）】

- ①ウォーミングアップは距離をあけて行う。
- ②コートへの入退場は、それぞれ指定された時間に、速やかにコートに集合する（移動の際は2m以上の間隔を空ける）。
- ③コートサイドにはかごやドリンクケースは設置しない。バッグ等を持参し、コートサイドもしくは所定の場所に置き、ドリンクも各自のバッグに収容する。こぼした時はモップ等でふき取る（自分のタオルを使用して拭かない）。
- ④ラケット・タオル等の用具の貸借はしない。
- ⑤床の汗拭きは、モップもしくは所定の用具を使用する。
- ⑥汗をコート内やコートサイドに投げない。
- ⑦シューズの裏を手で拭かない。
- ⑧試合中、意図的な声出しを極力しない。

- ⑨プレーヤー同士や監督、コーチとハイタッチ等の接触を行わない。
- ⑩コーチ席は1席のみとする。コーチングは一定の距離を保ち、必要最小限に短時間で行う。
- ⑪観戦は、指定された場所や席で行う。
- ⑫観戦中の応援は、声を出さず拍手で行う。席を移動しての応援はしない。

【審判員】

- ①主審、サービスジャッジ、線審、得点表示係等は、マスクを着用し、適宜手指消毒を行う。
- ②主審、サービスジャッジ、線審、得点表示係等は、使い捨て手袋着用とする。
- ③選手同士や審判員との握手は行わない。
- ④トスは、フィジカルディスタンスを確保して行う。
- ⑤飛沫防止対策のため、コールは必要最小限とするため、次のように省略する。
 - ⇒得点が入った際にマスク着用のうえスコアをコールするが、コート内にいる選手・監督・コーチ・サービスジャッジ・線審・得点表示係等に聞こえる程度のコールを行う。
 - ⇒得点表示装置を設置し、主審はスコアをコールするタイミングで得点したサイドを手で指し示す。
 - ⇒サービスジャッジは、マスク着用のうえ「フォルト」は発声し、シグナルを出す。
 - ⇒線審のイン、アウトのコールは行わず、シグナルのみとする（主審とのアイコンタクトが重要）。
- ⑥シャトルの交換は、主審が判断する。交換時は、使い捨て手袋を着用している方の手で、サーバー側へ渡す。準決勝以降はサービスジャッジが主審の判断を確認してから、選手へ渡す。
- ⑦マッチ終了後、コートにモップをかける。
- ⑧勝者サインは、もらわない。
- ⑨対戦終了後は、主審・線審・得点表示係は、競技関係用器具類を消毒する。

(4) 主催者対応

- 1) 受付場所、入場導線上等には、アルコール等の手指消毒液を設置する。
- 2) 人が対面する箇所には、アクリル板や透明ビニールカーテン等の遮蔽物を設置する。
- 3) 共用物品は定期的に消毒を行う。
- 4) トイレや入場口取っ手など、複数の人が触れる箇所については、こまめに消毒を行う。
- 5) 競技区域の備品（審判台、線審席、コーチ席等）については、毎試合ごとに消毒を行う。
- 6) 受付時やプログラム等物品の配布時には、マスクおよび手袋の着用を行う。また、物品の受け渡し時には、一旦机に置いたものを受け取ってもらうなど、接触を避ける対応を行う。
- 7) 手洗いおよび消毒等に関するポスター、サインの設置を行う。
- 8) 受付時など、参加者が距離をおいて並べるように目印等を設置する。
- 9) やむを得ずゴミの回収等を行った場合、館内の消毒作業等を行った場合は、必ず石けんと流水で手洗いをし、手指消毒をする。
- 10) 会場内を定期的に巡回し、消毒液の残量チェックとともに、参加者同士の密状態が発生し

ないよう、誘導等を行う。

- 1 1) 感染者が発生した場合に備え、個人情報取り扱いに十分注意しつつ、大会当日に大会関係者から提出された書面や大会申込用紙などの関係書類を、1カ月以上は保管すること。期日経過後は責任を持って破棄するものとする。
- 1 2) 会場内の定期的な換気を行う。

4. 大会関係者の感染が判明、もしくは感染が疑われる場合の対応

(大会関係者=監督、コーチ、選手、大会運営役員、スタッフ)

大会期間中に感染が判明、もしくは感染が疑われる症状が発生した場合には、大会レフェリーに報告のうえ、開催地の行政機関および担当保健所の指示のもと、然るべき対応をとることとする。また、感染拡大を防ぐために下記の対応を行うこととする。

- 1) 大会期間中に体調不良等で試合を棄権する場合は、来館せず大会事務局へ連絡することとする。レフェリーへ報告の後、保健所の指示を受け該当校と連絡をとり対応することとする。
- 2) 来館後、体調不良等が発生した場合は、監督を通じて大会本部へ連絡する。
- 3) 感染が疑われる症状（発熱、咳、咽頭痛等）がある場合には、別に用意する控室（個室）等で隔離のうえ、待機とすることもある。
- 4) 感染者および濃厚接触者と特定された者、抗原検査で陽性反応が出た者の出場（入場）は認めない。また、感染が疑われる症状がある場合も同様とする。
- 5) 感染拡大が懸念される場合には、関係各所と協議のうえ、試合の途中であっても中止とする場合がある。
- 6) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに濃厚接触者の有無等について大会事務局へ連絡すること。
- 7) 会場地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合には、各都道府県協会経由で、大会関係者へ連絡する。
- 8) ホテルで抗原検査の陽性反応が出た場合は、受診相談センター(0570-200-218)に連絡すること。そこから、その後の動きについての指示が出るので各チームで対応すること。PCR検査の結果が出るまでは宿泊しているホテルで待機すること。PCR検査の結果が陽性と判明した時点でコロナ感染者を受け入れるホテルに移動することになる。
- 9) 試合会場で陽性者（疑いも含む）が出た場合は、基本的に8)と同じであるが、試合会場からホテルに戻って待機すること。移動手段として公共交通機関は使用できないので、徳島県協会もしくは大会実行委員会のメンバーの自家用車（無言、窓全開）でホテルまで移動することもある。